

パラリンピック競技応援校

目的・ねらい

指定校がパラリンピック競技を観戦することや実際に体験すること、また、競技大会の運営ボランティアとして参加すること等を通じて、児童・生徒の障害者スポーツに対する興味・関心の向上、理解の促進を図るとともに、取組成果を他校へ普及・啓発する。

取組・活動内容

①実施時期

平成29年度～令和3年度

②実施規模

都内公立学校各年度10～50校

③実施競技

- | | | | |
|---------------|------------|--------------|-------|
| ・シッティングバレーボール | ・車いすラグビー | ・5人制サッカー | ・ボッチャ |
| ・車いすフェンシング | ・陸上競技 | ・トリアスロン | |
| ・ゴールボール | ・パワーリフティング | ・車いすバスケットボール | |

④取組・活動内容

- 各応援校毎にブラインドサッカー、ボッチャ、5人制サッカーなどの競技観戦等を行った。
- また観戦の際には熱中症対策グッズやストラップを付けるなど、会場で応援するかのような雰囲気 연출する工夫を施した。
- その他年間活動計画の作成、競技大会で運営ボランティア、競技の理解・啓発に関する様々な取組を行った。

本取組・活動の成果

- 競技を観戦した生徒からは、「まるで目が見えているみたいなおプレーだった。」など感嘆のコメントがあり、競技の観戦を通じてパラリンピック競技のすごさや素晴らしさを直接感じられたことが分かった。「競技観戦に行けなかったのは仕方がないけど、皆で応援できて、家で見るのとは違った。」など、新型コロナウイルスの影響もあり競技会場での直接的な競技観戦はできなくても、子供たちの心に残るような体験を創出することができた。
- 「障害のある人は少し遠い存在だと思っていたけど、街で見たら声を掛けてみたい」など、パラリンピック競技応援校を通じて児童・生徒の障害者理解が進んだ。

活動の様子

